

1. 授業の内容(Course Description)

世界経済危機は、パート I が大規模な政策と新興国の成長で一段落した後、ユーロ圏財政破綻の危機とアメリカ「財政の崖」問題で、パート II に移った。特に日本経済は 90 年代のバブル崩壊後長期低迷し、さらに世界経済危機に巻き込まれて「失われた 20 年」となった。

この危機を生きのびるためには、なぜ危機に陥ったのか、なぜ低迷が続くのか、どうすれば脱出できるのか、各人で考えを深める必要がある。

世界経済危機はアメリカの住宅バブル崩壊から起こったものであり、原因や対応策、その後の低成長、国債累増は、日本の経験とそっくりなため、「米欧の日本化」という見方が定着した。マクロ経済学的に見れば、両者は同じ原理から解釈できるはずである。

マクロ経済学は、世界経済危機を予見できなかったばかりでなく、あらゆる市場行動は合理的である、という市場楽観主義を広めて危機を引き起こした元凶ですらある。だが、いったん危機が起こってしまうと、事後的にマクロ経済学のどこが間違っていたのか、どう解釈し直したらよいのか、危機に至る過程と危機への対応、危機から脱出する過程をどう分析するか、が重要なマクロ経済学のテーマになる。

この授業では、世界経済危機と日本の「失われた 20 年」の現状を把握し、マクロ経済学の基本的流れをたどり、その有用性と限界を明らかにした後、バブル発生、崩壊、長期低迷のマクロ経済学的解釈を試みる。

(中略)

7. 授業の計画(Course Syllabus)

[第 1 回] 第 1 章 世界経済危機と日本の「失われた 20 年」

1. ユーロ圏財政破綻の危機で世界経済危機はパート II へ
2. 世界経済危機パート I からパート II に至るメカニズム

[第 2 回] 3. 各国の金融緩和・財政拡大策と 90 年代日本の比較

4. 日本経済のゼロ成長、デフレ、高失業、世界シェア低下

[第 3 回] 5. 日本経済のゼロ金利、国債残高累増、人口減少

6. 米欧の日本化

[第 4 回] 第 2 章 マクロ経済学の基礎

1. マクロ経済の循環 (1) モノの流れ

[第 5 回] (2) カネの流れ

- (3) 時間的流れ

[第 6 回] 2. ケインジアン の 45 度線分析

[第 7 回] 3. 数式による分析

[第 8 回] 4. IS-LM 分析

5. 世界経済の IS-LM 分析

- [第 9 回] 6. 数式による IS-LM 分析
- [第 10 回] 7. マンデル・フレミング・モデル
- [第 11 回] 第 3 章 マクロ経済の動学的経路
 - 1. 経済成長論 (1) 資本蓄積と経済成長の仕組み
- [第 12 回]
 - (2) 経済成長の黄金律
 - (3) 技術進歩と経済成長
- [第 13 回] 2. 消費の 2 時点間配分と貯蓄
 - (1) リカードの中立命題
 - (2) 消費のオイラー方程式
- [第 14 回] 3. 完全予見、合理的期待が成り立たないときに生ずるバブル
- [第 15 回] 4. 合理的バブルの理論と現実の比較